



御嶽山 火山防災だより

vol. 22

令和2年 2月



この「たより」は、地域にお住まいの方々に、御嶽山に関する情報と噴火に備えて行政が進めている対策についてお知らせし、皆様の日ごろの備えに役立てていただくことを目的としています。

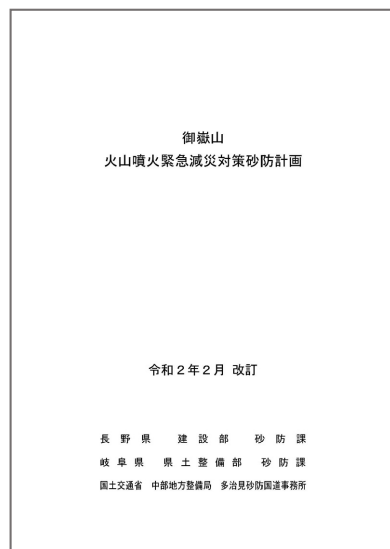
◆御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画が策定されました◆

令和2年2月、『御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画』が改訂されました。

御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画は、御嶽山の噴火に伴って発生する降灰後土石流、融雪型火山泥流等の土砂災害による被害をできる限り軽減（減災）することを目的とした砂防計画です。噴火が発生した場合には国および岐阜県・長野県、御嶽山周辺の市町村が協力して土砂災害対策を実施します。

この砂防計画は平成23年7月に策定し、運用されてきましたが、平成26年9月の噴火後に実施した緊急減災対応の経験を踏まえて、今回、砂防計画全体を見直すこととなりました。

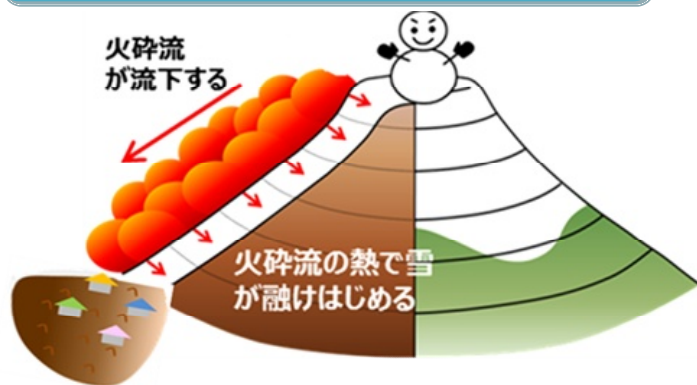
今後は砂防計画の実効性向上に向けて関係行政機関が協力し、緊急時に使用するコンクリートブロックの備蓄や、訓練の実施などを通して、次に噴火が起こった時に備えていきます。



御嶽山火山噴火緊急減災対策砂防計画
改訂について[記者発表]
(多治見砂防事務所 HP)



第10回 御嶽山火山緊急減災対策砂防計画検討会
会議のようす（令和2年1月22日 名古屋市内）



融雪型火山泥流が発生する仕組み

◆噴火の後に起きる災害～融雪型火山泥流◆

雪の積もっている時期に噴火が起こると、火砕流などの熱によって雪が融かされて水になり、岩石や木を巻き込んだ泥水となって流れ下る融雪型火山泥流が発生する可能性があります。

融雪型火山泥流は土石流よりもスピードが速く、谷筋や沢沿いを遠方まで流下するため、発生すると避難までの猶予がほとんどありません。また、積もった雪が一気に融けて流れ下るため、大量の泥水が広い範囲に被害をもたらします。

そのため、積雪期に火山活動が活発化したり、噴火が発生した場合には、融雪型火山泥流の発生を確認する前に避難することが必要です。



鳥海山 1974 年噴火時の融雪型火山泥流
撮影：宇井忠英

◆融雪型火山泥流の注意点◆

- ハザードマップや避難計画を確認して、危険な場所はどこか、噴火が発生したらどこに逃げればよいかを日ごろから確認しておく。
- 御嶽山周辺（山頂付近）の積雪状況に注意する。
- 河川のそばや低地など、融雪型火山泥流の危険度が大きい地域では、火山活動が高まってきたら早めに避難する。（自らの判断に基づく自主避難）
- 泥流の流れに直角方向に、近くの高台に避難をする。
- 近くに高台がない場合や、泥流が直ぐそばまで迫っている場合は、丈夫な建物の2階以上に避難する。

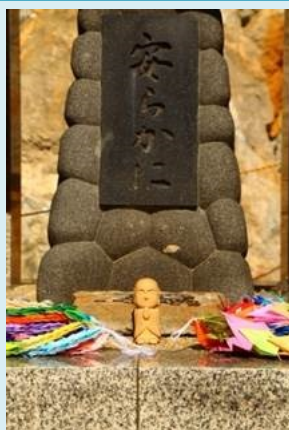
御嶽山火山
ハザードマップ
(Web版)
下呂市HPから



御嶽山火山
避難計画
木曽御嶽山
安全対策情報HP
から



御嶽山火山マイスター通信



2019年7月1日、頂上へと続く登山道の規制が解除され、シーズンを通して頂上へ行くことが可能になりました。様々な想いを胸に多くの登山者が頂上を目指したと思います。2019年9月27日。噴火から5年目を迎えた頂上付近はいつもとは全く違う光景が広がっていました。上空にはヘリコプターが旋回し、社名の入ったヘルメットを被った多くの報道関係者で溢れていました。でも、私が最も違うと感じた光景は、飛び回るヘリコプターでも、多くの報道関係者の姿でもありません。

それは最後の石段を登り切った時の登山者の『姿』です。

私が今まで見てきた光景は、頂上へと続く最後の急な石段を、息を切らし一段一段、ゆっくりとゆっくりと歩を進め、鳥居をくぐり、ようやく辿り着いた頂上で、

達成感と安堵そして目の前に広がる絶景に歓声を上げ、自然と『笑顔』が溢れる。そんな多くの登山者の姿でした。

でも、あの日頂上で目にしたのは、ザックの横に花束をつけ、手をつなぎ一段一段、ためらうように涙を流しながら、鳥居の無くなった頂上へと登ってくる登山者の姿でした。

ザックから外した花束を、破壊された傷跡の残る社に供え、しゃがみこんで手を合わせ肩を震わす姿を見れば、5年前大切な人を失ったことは語らずともわかりました。

立ち上がり振り返った一人の女性が、涙でにじんでいるであろう眼下に広がる景色を見て「綺麗だね」と呟き、隣に立つ男性も涙を拭いながら、静かにうなずいていました。

自然には『裏』も『表』も無いということに気づかされました。人間にとってあまりに絶望的で無慈悲な災害も、人々を惹きつけ、時がたつのを忘れるほどの絶景も、どちらも裏でも表でもなく、そこにあるものすべてが『真実』です。

『5年目』は節目ではありません。これからも私たち『御嶽山火山マイスター』は御嶽山の『真実』と向き合い多くの魅力を発信すると共に、火山防災・減災の啓発活動にも取り組んでいきます。

今回の記事は、火山マイスターの高橋俊吾さんに担当して頂きました。

最新情報はこちら→
御嶽山火山マイスターネットワーク



国土交通省中部地方整備局 多治見砂防国道事務所
〒507-0023

岐阜県多治見市小田町 4-8-6
砂防調査課

TEL: 0572-25-8020 (代表)

FAX: 0572-25-7994

E-mail: cbr-tajimi@mlit.go.jp

Twitter: @mlit_tajimi



既刊はこちら↓



協力：王滝村・木曽町・高山市・下呂市・長野県・岐阜県